第２７回 ＦＭ はなび 番組審議会議事録

１.開 催 日 時　令和５年３月９日（木）午後３時～

２.開 催 場 所　大仙市健康文化活動拠点センター　「ペアーレ大仙」３階教養室（３）

３.委　員 出 席

委 員 総 数　６名
出 席 委 員　４名
欠 席 委 員　２名（内２名　書面での参加）

・出 席 委 員
一色　浩　　委員長
佐々木　進永 委員
鈴木　正人　　委員
小山　貴子　　委員

・欠 席 委 員
石川　　穣　　委員
加藤　正則　　委員

放送事業者側出席者
賢木　新悦　/(株)TMO 代表取締役
福原　尚虎 放送局長/FM はなび
進藤　　久 /(株)TMO 大曲職員

４.議 題
（１）審議番組/「じさまのあぐらばさまのへなが」
※令和５年２月２２日(水)　１０:００～１０:１５放送分
（２）その他

５.議事の概要
（１）事前に審議番組の放送同録を委員に提出
（２）審議会当日、出席委員による意見交換

６.審議内容

（１）① 審議番組「じさまのあぐらばさまのへなが」について

・タイトルにあるように、昔話を語る、あぐらをかいたおじいさんや、ちょこんと座るおばあさんの丸い背中が情景に浮かびます。
昔話なので対象は子供なのでしょうが、番組の時間帯的に聴いているのはご年配の方が多いと思います。なので、自身の子供や孫に昔話を語った思い出を懐かしむようなコーナーになるのでしょうか。
また、方言の資料として需要があるのではと思いました。
一点だけ気になったのが、お話とお話の合間に音楽などのちょっとしたインターバルがあった方が良いと思いました。

・正当な秋田弁、地元の言葉というのがあるのかわからないが、最近こういう喋り方をする人が少なくなったと実感する、方言が「薄く」なっていくのではないか。
秋田の民謡も生活文化を描いているものなので、このような番組は歴史を守るものだと思う。
これからも、もっと地元文化であるこの口伝を残してほしい、そもそもそういう気持ちで作られている番組だと思うが。

・方言が廃れてきているいま、番組の果たす役割は大きいと思う
私的な話だが最近身内の８０代の義父と暮らし始め、ようやく会話で使われる義父の秋田弁が説明できるようになってきた、時に意味不明の言葉もあり、非常に繊細な言葉もあるとも思った。
この番組は語学の教育番組になると思う。

・まず番組名がインパクトがあると思った。
例えば秋田出身で東京などで暮らしている人も、この番組を聴けば懐かしく思ってくれるだろう。
良い感じの方言で、気持ちよく伝わってくる。
今後とも長寿番組として続いてほしい。

・「お～い昔っこ始まるぞ～」という出だしから期待感が持てた。
農業関係の仕事をしていて７０代との付き合いが多いので、親近感を感じた。
方言の一部でもあろうけど話の端々の「けど」という言葉が、ちょっと気になった。
一回につき一話の方が楽に聴けると思った。

（１）② その他

■記念日や誕生日にお祝いメッセージを放送する番組は出来ないか提案
■イベント、特番に関する報告　など

７.審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

・特になし。

８.意見の概要の公表

・公表の方法 自社ホームページ（http://fmhanabi.com）への掲載

・公表年月日 令和 ５年　４月 ２１日

・事務所への備置き

９.備考

・次回開催予定日

日　時　令和５年　　６月　８日（木）午後３時

会　場　ペアーレ　３階　教養室（３）